



# エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

2024年4月10日

環境大臣 伊藤 信太郎 殿

東京ガス株式会社  
取締役代表執行役社長CEO  
笹山 晋一

東京ガスグループは、グループ経営理念「人によりそい、社会をささえ、未来をつむぐエネルギーになる」のもと、脱炭素社会の実現をはじめとした地球環境保全活動に積極的に取り組み、地球・社会・地域・お客さまの未来に貢献していきます。

## ■脱炭素社会実現への取り組みを積極的に推進します

- ・東京ガスグループの事業活動全体で、お客さま先を含めて排出する CO2 を 2050 年にネット・ゼロにすることに挑戦し、脱炭素社会への移行をリードします。
- ・脱炭素社会への「責任あるトランジション」を実現するため、天然ガスの高度利用により着実に社会全体の CO2 を減らし、再エネ(2030 年度取扱量 600 万 kW)、e-methane(2030 年度 1%導入)、水素等の脱炭素化分野を推進します。
- ・社会全体の CO2 削減に貢献するため、東京ガスグループの国内外での天然ガスの普及拡大による低炭素化分野と再エネ等の脱炭素化分野の事業取組みにより 2030 年に CO2 削減貢献量 1,700 万トンの達成を目指します。
- ・CO2 ネット・ゼロに資する先進的な自社商材を積極的に活用しながら 2030 年度の自社活動排出 CO2 ネット・ゼロ化を目指します。
- ・お客さまの熱需要への対応として CO2 クレジットを活用した LNG の普及拡大をします。バイヤーズアライアンスを運営し普及拡大に努めるとともに、活用するクレジットの質や透明性の向上と数量管理等の運用の厳格化に取り組めます。
- ・東京ガスグループの温室効果ガス排出量を定量的に把握し、第三者保証を付けた信頼性が高いデータとして開示します。また TCFD に賛同しており、気候変動が事業活動に与える影響とそれに対する取り組みを適切に開示します。

## ■循環型社会実現の取り組みを積極的に推進します

- ・産業廃棄物の再資源化率の維持・向上、ガス導管の埋設工事における掘削土の削減、ガスメーターの再利用、使用済みのガス管の再資源化など事業活動の各段階で資源循環を推進します。
- ・業務プロセス見直しや DX 推進による紙資料の排出削減、オフィス内の分別徹底による再使用・再資源化を積極的に推進します。

## ■生物多様性の保全に向けた取り組みを推進します

- ・天然ガスの調達から輸送、製造、供給に至る LNG バリューチェーンの各段階で、影響を調査・把握し、生物多様性保全のための取り組みを推進します。
- ・環境省が推進する 30by30 アライアンスに参加し、社有林を計画的に管理(皆伐・植林など)するとともに、保有地において希少動植物の保全や定期的なモニタリングを行います。
- ・当社の環境・社会貢献活動である「森里海つなぐプロジェクト」を通じて、環境 NPO 等と連携して地域社会の環境保全活動を推進します。
- ・アマモの植生を保全することで、生物多様性の確保をはかります。

## ■環境金融を活用し、低炭素・脱炭素にむけた取り組みを推進します

- ・東京ガスグループは脱炭素社会へのトランジションをリードするため、当社が策定した「トランジション・ファイナンスフレームワーク」に基づき、投資家および幅広い市場関係者との対話を重ねながら、脱炭素化のための移行戦略資金を積極的に調達していきます。

## ■環境意識の向上と環境教育の取り組みを推進します

- ・未来を担う子どもたちにエネルギーと環境の大切さを伝え、学校教育が目指す「生きる力」を育むための支援を行い、その成長をサポートしていきます。
- ・当社グループ従業員への環境教育を実施し(年1回以上)、グループ員の理解・浸透を図ります。
- ・地域に根差す企業として、地域・コミュニティの活性化に貢献し、地域社会の皆様とともに持続可能な社会づくりを目指します。

東京ガスグループは、上記取り組み内容の進捗状況を確認し、環境省へ報告するとともに、統合報告書やホームページなどで定期的に公表します。

未来をつむぐ エネルギー  TOKYO GAS GROUP